

企画展

東海道と鳴海宿

2025年2月13日(木)～3月23日(日)

期間中の木・金・土・日曜日のみ開館 10時～16時30分(入館は16時まで)

協賛



丹下町常夜灯



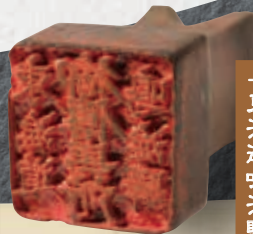
寛政4年(1792)建立

鳴海代官所(陣屋)



慶長6年(1601)正月日付
鳴海宛 徳川家康伝馬朱印状

「東海道鳴海駅御伝馬所」印



西問屋場

成海神社

現在の千代倉歴史館

千代倉家

平部町常夜灯



文化3年(1806)建立

鳴海宿の本陣

現・根古屋町の山車蔵

東問屋場

【参考】天保15年(1844)頃の鳴海宿の様子を記す絵図(昭和25年写・個人蔵)

利用案内

次回展覧会予定 ▶ 千代倉家の床の間から 2025年4月24日(木)～6月8日(日)

■ 開館日 ■

展覧会開催中の

木曜日から日曜日

(展覧会は年4回程度開催)

月	火	水	木	金	土	日
-	-	-	●	●	●	●

※その都度ホームページ等でお知らせします。

■ 開館時間 ■

10:00～16:30

(入館は16:00まで)

■ 観覧料 ■

一般 500円

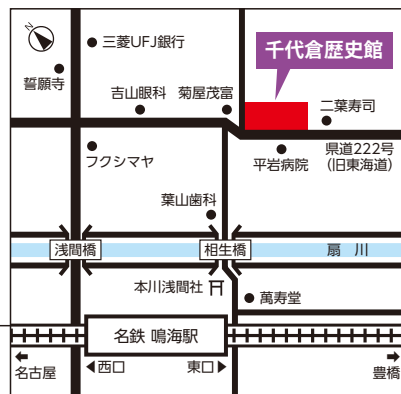
高大生 300円

小中生 100円

- 団体見学ご希望の方は2週間前までにご相談ください。
- ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。
- 駐車場はございません。

アクセス

名鉄鳴海駅東口から徒歩4分



千代倉歴史館

Chiyokura Memorial Museum at Narumi-stage, Tokaido

お問い合わせ等は
ホームページまで



〒458-0801 名古屋市緑区鳴海町字相原町27

東海道と鳴海宿

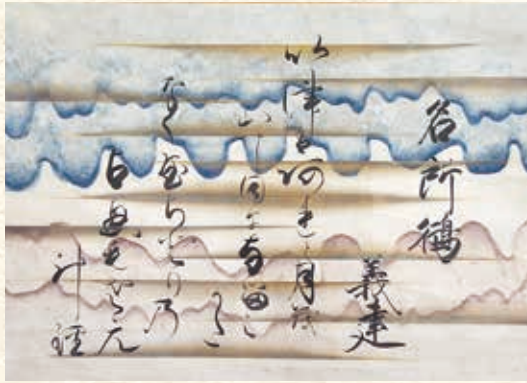
江戸時代徳川家康は慶長八年（一六〇三）の江戸幕府の開幕に先立ち、慶長六年（一六〇一）正月、東海道筋の宿場へ朱印状を発行し、街道の整備をおこないました。鳴海はこの時より東海道の宿駅となり、明治維新を迎えるまで、東西をつなぐ宿場町として栄えました。

千代倉家には東海道を行き来した大名の宿帳や関連する道具類が残り、また伝馬に関するいくつかの文書も伝わっています。さらに代々の当主が残した日記にも、鳴海宿でおきた事件や、尾張藩や幕府の要人などが休泊したことが記されています。本展では宿場町として栄えた鳴海の様子を紹介します。

鳴海を詠んだ和歌



和歌懐紙「鳴海」
寛政五（一七九三）以降
日野資枝詠・筆 錦小路頼尚画
「朝みどりかすみの色になるみかた
波路はるかにうかぶとも舟」



和歌懐紙「名所鶴」

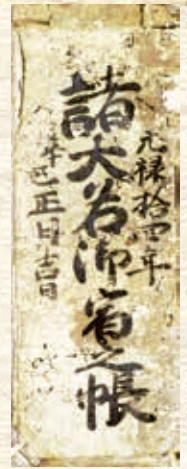
弘化二年（一八五四）
松平義達（高須家十代）詠・筆

「いつはあれど月も
出し日になるみかた
なくやちどりの
こゑもさえけり」

千代倉家に伝わる宿帳と道具類

諸大名御宿之帳

元禄十四年（宝暦六年）（一七〇一）～五六



梨子地牡丹唐草葵文
蒔絵湯桶

江戸時代



黒地菊唐草揚羽蝶家紋
蒔絵高枕

江戸時代 客人用の枕



梨子地鉄線唐草葵文
蒔絵行器

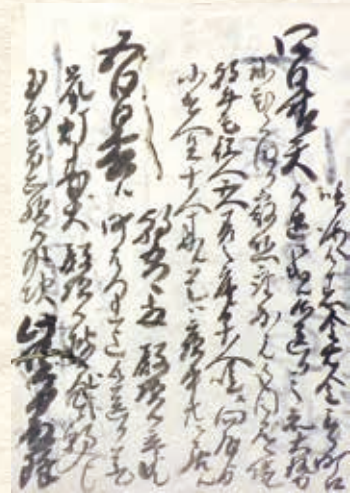
江戸時代



要人の鳴海休泊(千代倉家日記)

元禄六年（一六九三）

三月四日～五日
尾張藩二代藩主先友、江戸出府のため、鳴海に一泊する。この時、鼠灯台を上覧に供す。



慶応四年（一八六八）

九月二十七日～二十八日
明治天皇の東京遷都に際し、鳴海宿に一泊。随伴の主な公卿は下郷本家・分家に休泊。

